



虹っ子だより

北本市立中丸東小学校

10月号

令和8年9月25日

やさしい子

たくましい子

進んで学ぶ子

な

か

ひ

が

読書を通して心と学びを豊かに

校長 岡安 栄一

書店や図書館で本を選ぶとき、表紙を眺め、目次や結論に目を通し、大まかな内容をつかんでから購入したり借りたりしていないでしょうか。大人が何気なく行っているこうした行為は、1940年に米国で出版された『本を読む本』に4つの段階として記載されています。実は国語科での物語文や説明文の読解の授業でも大切にしている読み方に似ています。授業で読解を深めるプロセスを4年生の「ごんぎつね」を例に、その大まかな流れとしての上記の4つの段階を紹介します。

読む力を深める「4つの段階」

① 正しく読む ～言葉の基礎をつくる～初級読書

文字や言葉を正しく読み、書かれていることを正確に捉えます。

② ざっくり読む ～全体を見渡す～点検読書

題名や文章の構成を手がかりに全体のイメージ、あらすじをつかみます。

③ じっくり読む ～心を通わせ、考えを深める～分析読書

登場人物の気持ちや筆者の考えを読み取り、「なぜだろう」「自分ならどうするだろう」等と考えます。特に文章から「ごんと兵十の心のすれ違い」をじっくりと読み解きます。

④ 読み比べる ～自分の考えをつくる～シントピカル読書

複数の本を読み比べたり、疑問点を調べたりしながら、さまざまな考えに触れ、自分なりの考えをつくります。作者（新美南吉）の他の作品（「手袋を買いに」など）と読み比べることで「相手の気持ちは見た目の行動だけでは分からない」など、児童は自分なりの考えを広げていきます。

これら4つの段階は、前の段階を内包しながら、読みを深める目的に応じて上の段階に進んでいきます。いわば①を土台にしたピラミッドのような構造になっているため、読書の目的に応じて、読みの深さをコントロールすることが大切です。冒頭の書店等で本を選ぶ場合は①と②の段階にあたります。④の「読み比べる」学習は、総合的な学習の時間や各教科の調べ学習でも大いに活かされています。

読書で増える「3つの引き出し」

こうした読書体験を重ねることで、児童の心の中には人や物事に関するイメージの枠組み、いわば、知識、心、言葉の引き出しが少しずつ増えていきます。

○知識の引き出し

新しい本に出会うたびに知識が蓄えられ、ものの見方や世界が広がります。

○心の引き出し

読書でさまざまな人の考え方や生き方に触れることで、人の気持ちを想像したり、相手の立場に立って考えたりする豊かな心が育ちます。

○言葉の引き出し

美しい表現や豊かな言葉に触れることで、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝える力が育ちます。

何より読書の大きな魅力は、「自分が知っていることは世界の一部に過ぎない」（不知の自覚）に気付けることです。この小さな驚きや「なぜだろう」という疑問が次の学びへの原動力となります。

本との出会いは、児童の未来の選択肢を広げます。御家庭でも、読書的话题を共有していただきながら、お子さんの知的好奇心を温かく見守っていただければ幸いです。今後も学校の教育活動全体で、読書活動の充実に努めてまいります。



【図書室壁面掲示の「おすすめ本」】